

令和5年度 学校評価・関係者評価

加古川市立志方西小学校

令和5年度に取り組んできたことに対する学校評価を公表いたします。本年度当初に示した重点目標や、その具体的な方策に対して、教職員や保護者の皆様からのアンケート結果をもとにし、学校が4段階で自己評価をし、次年度に向けた改善方策を策定しています。これをもとにし、学校運営協議会の皆様に、学校の取り組みを学校関係者評価としてしていただきました。以下はその内容を取りまとめたものです。

学校教育目標

「豊かな心を持ち、自ら学び、ともに生きる子の育成」
 めざす児童像：よく考える子・素直で優しい子・元気で明るい子
 めざす学校像：子どもと職員の幸福感があふれる学校（成長が実感できる「たのしい学校」・働き甲斐のある学校）

I 教育活動に関するもの

a:十分到達している b:到達している c:やや到達不足である d:できていない

本年度重点指導事項	本年度の具体的な方策	教職員	保護者	次年度に向けた改善の方策 (学校自己評価)	学校関係者評価
魅力ある授業の創造	主体的な学びの姿勢	A	A	○外部団体や専門機関との連携協力による出前授業等を積極的に活用し、児童にとって魅力的でより専門性の高い授業づくりに努める。【継続】	ICTの活用には、かなりの専門性を持った教員が必要と思う。教員の育成や先進的な学校との交流など学校を超えた施策が必要。学年に応じた活用はできていると思う。協同的探究学習やICTの活用など新しい技術や教育方法に取り組む必要があり、大変だと思うがこれからの子どものためにもがんばってほしい。
	基礎・基本的な内容の確実な定着	A	A	○「学習の手引き」を活用した、家庭と連携した基本的な学習習慣の確立。【継続】	
	「わかる学力」の育成	B	A	○一人一台端末や電子黒板、デジタル教科書等を積極的に活用した授業を公開する。【継続】	
	ICTの活用	C	A	○全教科において、「目標」(1時間のめあて)・「指導」(めあてを達成するための手立て)と「評価」(児童がどこまでめあてにせまり、達成できたかの見取り)の一体化を意識した授業づくりを目指す。【継続】	
	兵庫型学習システムの運用	B	A	○「個別最適な学び」と「協同的な学び」の実現を目指して、一人一台端末を有効活用した授業づくりを目指す。【継続】	
心の教育の充実	道徳性の育成	C	A	○他者や自己との「対話」により、「生き方」を問う道徳科の授業づくりを目指す。共に考え、悩み、夢や希望を共有する姿勢で、子どもの心に響く道徳科の授業を行い、道徳的な実践力を高める。【継続】	地域のいろいろな職業や経験を重ねた人を授業や職員の研修に招くと幅広い人材の育成につながると思う。特別支援学級における対象児童の個別支援に加えて、全校児童が認め合い支え合う心情を育て、思いやりのある子どもを育てることを目標にできるように期待したい。一部の児童の言動だけで全体の評価が低くなっているのではないかと先生自身も幅広く子どもを見つめていけるようにお願いしたい。いじめはもちろんそれらに伴う不登校の未然防止に取り組んでほしい。
	道徳的実践力の育成	B	A	○いじめ防止に繋がる道徳教材を、学級づくりの時期(4~5月)やいじめ防止啓発月間(9月)に合わせて全学年で実施し、いじめを許さない強い心とともに相手を思いやる温かい心を育む。【継続】	
	交流活動の充実	A	A	○アセスや心の相談アンケートを積極的に活用し、いじめの積極的認知及びいじめ見逃しゼロ、不登校の未然防止をめざす。【継続】	
健康で安全な暮らしの推進	健康な身体づくりの推進	A	A	○西っ子活動(縦割り活動)の充実を図るとともに、他小学校とリモート交流をする等、交流活動の更なる発展をめざす。【継続】	防災とともに、被災者となった場合に、2次被災者とならない取組も必要と思う。登校時の児童の様子は、落ち着いており、たいへんすばらしく感じている。学校のルールが守れるようよりよい共通理解を図ることが必要。
	健康・安全意識の確立や生活習慣の定着	B	A	○「ため池」ふるさと学習を通じて、地域でのふれあい活動の充実を図る。令和5年度以降も血池のかいぼり体験の継続を図り、地域とともにある学校づくりをめざす。【継続】	
	安全指導の充実と安全・防災意識の確立	C	A	○運動会等の体育的行事について、持続可能な学校行事とするために実施方法を工夫する。【継続】	
学校・家庭・地域との連携を深める	開かれた学校	A	A	○運動会等の体育的行事について、持続可能な学校行事とするために実施方法を工夫する。【継続】	児童数の減少傾向から、既に実施されている合同マラソン大会など、教職員におかれては大変だが、その連携実績は評価できる。学校だよりやホームページなどで随時お知らせがあり、情報発信に努められている。来年度からは、スクリーンアプリの本格運用も始まり、より一層の情報発信を期待したい。地域の特色を生かした活動ができてる。
	保護者との連携	A	A	○専門機関と連携協力した取り組みを推進する。【継続】	
	地域との連携	A	A	○インターネットトラブル防止講座	
	コミュニティスクール	A	A	○交通安全教室(自転車の安全な乗り方講習も実施)	
				○1.17追悼集会への語りべ講師の招聘	
				○危機管理マニュアルを活用した教職員の研修を実施し、学校安全の3領域(生活安全・交通安全・災害安全)について安全・防災意識を高める。【継続】	
				○委員会・児童会活動等を活用し、学校生活における規範意識を子どもの内側から高める。そして、子ども自身が問題意識をもち、子どもが主体となって解決していけるように導く。【継続】	
				○HPや学校だより、3Qメールや学年だよりを積極的に活用し、学校や児童の様子を保護者や地域の方々により分かりやすく情報発信していく。【継続】	
				○保護者が教育相談を年間を通していつでも受けられるよう相談体制を整備し、児童と保護者に寄り添った姿勢で丁寧に対応する。【継続】	
				○「まちづくりの拠点」として、今後も学校が地域と共にあり続けられるよう、地域の方々からの声を大切にし、このまちの未来を創造するカリキュラム開発に努める(総合的な学習の時間を中心)。【継続】	
				○「ため池」ふるさと学習を通じて、地域でのふれあい活動の充実を図り、子どもたちが生き生きと学び合う教育活動を計画する。【継続】	
				○志方中学校区をあげて、挨拶運動を継続実施する。【継続】	
				○志方中学校区ユニット推進部会、志方中学校区学校運営協議会における協議事項について、教職員間で共通理解し、全教職員が同じ方向でユニット内の連携に努める。【継続】	

特別支援教育の推進	個別の指導計画に基づく指導の充実と、支援教育の啓発に努める。	A	○それぞれの子どもの実態を把握し、職員全体で情報を共有し、大勢の目で一人の子どもを見守る(みんなでみんなを)ということをして今後も大切にする。【継続】	西っ子活動の縦割り集団での活動が、児童の実態にあっており、たいへん良い取り組みだと思ふ。 インターネットトラブル防止講座を毎年実施されており、その危険性について知る機会があるのがいいと思ふ。今後も引き続き取り組んでほしい。地域と連携したため池学習など、子どもたちと地域の発展のためにも今後も続けてほしい。
総合的な学習の推進	地域での活動を積極的に進めながらカリキュラムへの位置づけを図り、探求する学習の充実を図る。	A	○教職員自身がこのまちのよさを知るために、ふるさとの地理や歴史等を学ぶ研修の機会を持つ。地域学講座の継続実施。【継続】	
特別活動の推進	いきいきと活動できる学級経営を基盤にすえて、委員会や児童会活動の活性化を図る。	B	○縦割りの西っ子活動や児童会活動を通して、上級生の姿をロールモデルとして下級生にも示すことで、リーダーシップや思いやり、協働の心を育て、目標を持って行事に参加させる。【継続】	
情報教育の推進	情報活用能力、情報モラル等の育成に努める。	B	○各学年の発達段階に応じた情報活用能力・情報モラルを計画的に身に付けさせ、積み上げていく。【継続】	
福祉教育の推進	異学年交流や地域との交流を通して人を思いやる心を育てる。	A	○異学年交流や地域の方々、高齢者の方とのふれあいが子どもたちにもたらすよい効果をこれからも大切にする。【継続】 ○福祉教育体験活動(アイマスク体験、車いす体験、手話体験、介護老人福祉施設との交流等)については、年間指導計画をもとに、他教科の内容と関連付け、教科横断的な視点で取り組んでいく。【継続】	

II 運営に関するもの

職員間の共通理解	学校教育目標の実現におけ、共通理解や意志の疎通を十分図る。	C	○小規模校のメリットを生かして、教職員間で素早い情報共有を行い、チームとしての確かつ真摯に対応する。【継続】	全体的に、教職員の自己評価にB・Cが見受けられ、保護者評価はAなので、自己に厳しく向上心の現れと認識している。現状と目標の乖離があるならば、その差を埋める努力をすべく、先生方の今後の努力に期待したい。 いろいろな職員の考えを出し合い、常に新しい学校を作り上げてほしい。 働き方改革を進め、先生方も健康で働きやすい職場になるように努めてほしい。 本年度のように職員の入れ替わりが多い年は特に、ICT等を活用等で、連携・共通理解を迅速かつ的確に行うことは重要である。 教職員のC評価は、まだ足りないもっとできると感じられているんだと思ふ。しかし、保護者はA評価。もっと上の授業の質を目指す先生のお気持ちを次年度も応援したい。
運営の活性化	PDCAサイクルを活かした運営を行い、教育活動を活性化する。	B	○学校行事等の終了後の振り返りを大切にするとともに、改善できることは即実行にうつすことを心がける。また改善策が必ず実行ある取組となっていくよう、その進捗状況を定期的に確認していく(進捗管理の徹底)。【継続】	
教職員の資質向上	授業研究や研修を計画的に行い、指導力の向上に努める。	B	○授業研究を通して授業の技術を磨くとともに、ベテラン教師が核となり、計画的に校内研究を進めるとともに、職員間の同僚性を高め、質の高い教育の実現を目指す。【継続】	
施設・設備の維持管理	各教室や特別教室など、教育環境を整え整備する。	A	○教職員にとって「働くこと」が「健康」「幸せ」につながるよう、明るく働きやすい職場をめざす。【継続】	

(A:90%以上[a+b] B:70%以上[a+b] C:50%以上[a+b] D:49%以下[a+b]) 【継続】継続実施 【新規】R5年度から新たに実施